

令和 2 年 6 月 25 日現在

機関番号：15101

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2017～2019

課題番号：17K16006

研究課題名(和文)急性冠症候群患者への教育介入と長期予後の関係にエゴが及ぼす影響

研究課題名(英文) Effects of ego state on the relationship between educational intervention and long-term prognosis in patients with acute coronary syndrome

研究代表者

柳原 清孝 (YANAGIHARA, Kiyotaka)

鳥取大学・医学部・助教

研究者番号：50788180

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,200,000円

研究成果の概要(和文)：急性冠症候群(ACS)で入院した患者30名(平均年齢 $68 \pm 12$ 歳, 男性は26名)に東大式エゴグラムを用い親のエゴ(Critical Parent; CP, Nurturing Parent; NP), 大人のエゴ(Adult; A), 子どものエゴ(Free Child; FC, AC; Adapted Child)を評価した(点数は中央値(四分位範囲))。CP: 65 (47-81), NP: 57 (38-72), A: 52 (32-89), FC: 64 (33-81), AC: 27 (8-59)で ACが他のエゴに比べて有意に低値であった( $p < 0.05$ )。

研究成果の学術的意義や社会的意義

急性冠症候群患者の性格はACの低さ, すなわち, 相手の考えや気持ちを認識できず, 自己中心的, 非協調的な対人関係をとる幼さが特徴であり, 子どもの自我が行動様式に影響している可能性が示唆された。

研究成果の概要(英文)：We evaluated psychological characteristics of 30 patients (mean age  $68 \pm 12$  years; 86.7% male) admitted acute coronary syndrome using the Tokyo University Egogram(TEG) New Ver. . The TEG attempted to explain and predict human behaviour in terms of the relative strength of five functional ego states; Critical Parent (CP), Nurturing Parent (NP), Adult (A), Free Child (FC) and Adapted Child (AC). AC was significantly lower than other ego state (CP: 65 (47-81), NP: 57 (38-72), A: 52 (32-89), FC: 64 (33-81), AC: 27 (8-59), Data are median (interquartile range).  $p < 0.05$ ).

研究分野：循環器

キーワード：エゴ 急性冠症候群

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

## 1. 研究開始当初の背景

急性冠症候群 (ACS) は冠動脈の動脈硬化進行が要因であり、その動脈硬化は高血圧症、糖尿病、脂質異常症、肥満症などの身体的因子に加え喫煙、運動などの生活習慣との因果関係が疫学調査で証明されている。経皮的冠動脈形成術あるいは冠動脈バイパス術による冠血行再建治療を受けても、その後の生活習慣の是正が不十分であれば心血管イベントの発症率は高いことが報告されており、本邦や欧米では二次予防のため生活習慣の適正な管理を推奨している。我々は心不全患者を対象として、疾患に関する教育、服薬指導、栄養指導、運動に関する指導などを多職種で実施することで退院後のイベントを約 50%低下できることを報告している。この中で、多職種による介入の中でも特に各職種による教育的介入が重要であることも明らかとした。ただし、これまでに行われた海外の研究結果を見ると、我々のように患者教育の有効性を示す結果ばかりではなく、患者教育介入の効果に否定的なものも少なからず見受けられる。このような結果の相違が単に人種差や医療システムの相違に基づくのか否かなど、その要因は明らかとなっていなかった。我々は患者教育が有効とする結果を発表しているが、日常診療では教育効果のある患者と無い患者が混在することを実感している。そこで、この相違が患者のエゴの違いに基づくのではないかと仮説を立て、心不全入院時に多職種による教育を受けた 40 名の患者を対象に、その後の再入院の有無とエゴとの関係について preliminary study として後ろ向きに検討した。再入院患者の 3/4 において、再入院がアドヒアランスの欠如と関連していた。次いでエゴを新版 TEG II 東大式エゴグラム Ver. II に従って Nurturing Parent (NP)、Critical Parent (CP)、Adult (A)、Free Child (FC)、Adapted Child (AC) の各々についてスコア化し、教育効果があったと考えられる再入院無しの患者と、教育効果が認められなかったと考えられる再入院をした患者で比較したところ、再入院をした患者で AC が明らかに低値であった。

## 2. 研究の目的

本研究では ACS 患者について、患者のエゴが教育効果に与える影響を前向きに検討する。ACS 患者においてエゴと心血管イベントを含めた臨床イベントが関連するようであれば、合わせてエゴと関連する因子 (社会的要因、身体的要因) についても検討する。患者のエゴが教育効果に影響を与える場合は、現行の教育方法が有効な患者を選択し集中的な教育を行うとともに、現行の方法が無効な患者に対する新たなアプローチの構築に結びつける。

## 3. 研究の方法

2016 年 7 月 ~ 2017 年 2 月、ACS で入院した患者 30 名に東大式エゴグラムを用い親のエゴ (Critical Parent; CP, Nurturing Parent; NP)、大人のエゴ (Adult; A)、子どものエゴ (Free Child; FC, AC; Adapted Child) を評価した。冠動脈危険因子を含めた背景疾患、合併症などの情報、血液検査、心臓超音波検査のデータも併せて収集し、退院 1 か月後、6 か月後、9 か月後の経過を追跡した。

## 4. 研究成果

対象患者 (平均年齢  $68 \pm 12$  歳、男性は 26 名) のうち不安定狭心症: 7 名 (23.3%)、急性心筋梗塞: 23 名 (76.7%) であった。併存症は高血圧症: 21 名 (70%)、脂質異常症: 16 名 (53.3%)、2 型糖尿病: 8 名 (26.7%)、生活歴・生活環境は飲酒: 15 名 (50%)、喫煙: 12 名 (40%)、独居: 5 名 (16.7%)、既婚: 22 名 (73.3%)、高等教育歴: 25 名 (83.3%) であった (表)。

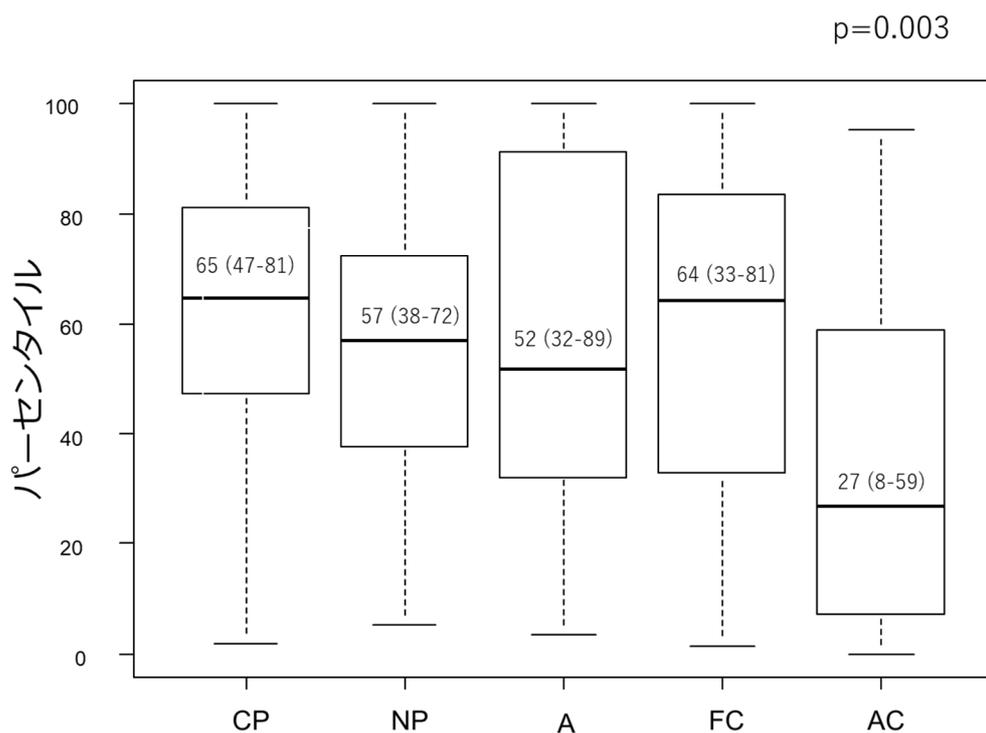
各エゴ (パーセンタイル、中央値 (四分位範囲)) は CP: 65 (47-81)、NP: 57 (38-72)、A: 52 (32-89)、FC: 64 (33-81)、AC: 27 (8-59) で AC が他のエゴに比べて有意に低値であった ( $p < 0.05$ ) (図)。AC 低値は相手の考え気持ちを認識できず、自己中心的、非協調的な対人関係をとる幼さが特徴である。以上より ACS 患者の性格は AC の低さが特徴であり、子どもの自我が行動様式に影響している可能性が示唆された。しかし各エゴと冠動脈再狭窄・新規病変イベントについて主要評価項目として解析したが有意な所見を得られなかった。対象患者の登録数を増やすことや観察期間を延長し、各エゴと心血管死、入院を要する心血管疾患イベント、全死亡などの臨床イベントとの関連性を解析する必要がある。

表 患者背景

項目	n=30
年齢(歳)	69 [60-75]
男性 (%)	86.7
Body Mass Index(kg/m2)	24.0 [16.9-29.1]
収縮期血圧(mmHg)	139[124-155]
拡張期血圧(mmHg)	81[73-88]
飲酒(%)	50.0
喫煙(%)	40.0
独居(%)	16.7
既婚(%)	73.3
高等教育(%)	83.3
虚血性心臓病(%)	13.3
高血圧症(%)	70.0
脂質異常症(%)	53.3
2型糖尿病(%)	26.7

中央値 (四分位)

図 各エゴの点数分布



5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計4件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 Kiyotaka Yanagihara, Yoshiharu Kinugasa, Tetsuro Kunimi, Nobuhiko Haruki, Masayuki Hirai, Masahiko Kato, Kazuhiro Yamamoto
2. 発表標題 The ego states interfere with self-care behavior change in patients with heart failure
3. 学会等名 日本循環器学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 国見哲郎、柳原清孝、衣笠良治、春木伸彦、平井雅之、万場みどり、加藤雅彦、山本一博
2. 発表標題 急性冠症候群患者の性格（エゴ）評価
3. 学会等名 日本心臓病学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 国見哲郎、柳原清孝、衣笠良治、春木伸彦、平井雅之、万場みどり、加藤雅彦、山本一博
2. 発表標題 急性冠症候群と心不全患者の性格（エゴ）評価
3. 学会等名 日本心不全学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 國見哲郎、柳原清孝、衣笠良治、春木伸彦、平井雅之、万場みどり、加藤雅彦、山本一博
2. 発表標題 急性冠症候群と心不全患者の性格（エゴ）評価
3. 学会等名 第21回日本心不全学会
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----